

令和5年度

# 事業報告書

第 11 期

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月 31日

社会福祉法人 かなえ会



# 1. 法人本部

## (1) 令和5年度の運営状況について

運営状況については、理事会を業務執行に関する意思決定機関とし、各事業所の経営及び運営方針を決定してきた。評議員会が運営に関わる重要事項の議決機関として最大限に機能を発揮することで、健全かつ公正な経営を行っている。

前年度同様、医療法人将優会との情報交換をはじめ、行政や宮崎県社会福祉協議会及び宮崎県老人福祉サービス協議会等が主催する研修会に積極的に参加した。

また、社会福祉法人としての地域・社会における役割を認識し、使命と責任を持って努めた。

新型コロナウイルス感染症が5類となり、社会状況が大きく変化する中、社会のニーズに応えるべく地域や関係機関・他事業所と共に地域医療介護ネットワークを形成し、今後も、常に情報を先取りすることで、医療と介護の連携による安心・安全な街づくりを目指し、地域に根差した活動と安心・安全かつ安定した事業運営を引き続き実施することで、地域・社会に貢献していきたいと考える。

## (2) 理事会の開催状況

回	開催年月日	出席者数	審議事項
第1回	令和5年5月27日 13:57~14:45 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	理事5名 監事2名	○令和4年度事業報告及び決算報告並び及び監事監査報告について ○規程・規則改正について ○施設長の選任について ○新役員候補者の提出について ○定時評議員会の招集について
第2回	令和5年6月11日 15:00~15:10 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	理事6名 監事2名	○理事長の選任について
第3回	令和6年3月16日 14:03~15:01 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	理事5名 監事2名	○令和5年度 第一次収支補正予算(案)について ○令和6年度 事業計画について ○令和6年度 収支予算について ○規程・規則改正について

## (3) 評議員会の開催状況

回	開催年月日	出席者数	報告事項・決議事項
第1回	令和5年6月11日 14:00~14:40 特別養護老人ホームかなえ 地域交流室	評議員5名 理事2名 監事2名	報告事項 ○令和4年度事業報告 決議事項 ○令和4年度計算書類等の承認について ○理事の選任について ○監事の選任について

#### (4) 評議員 選任・解任委員会の開催

令和5年度の開催はなし

#### (5) 監事監査の実施

監事監査日時	令和5年5月10日 13:25~14:15
監事監査項目	○理事の業務執行状況 ○法人の財産管理状況 ○法人及び施設の業務執行状況 ○法人及び施設の会計状況
結果	指摘事項なし

## (6) 職員の動向

【特別養護老人ホームかなえ・短期入所生活介護事業所かなえ・ケアライフかなえ】

職種	R5.4.1 現在 在籍者数	令和5年度		R6.3.31 現在 在籍者数
		入職(異動)者数	退職(異動)者数	
施設長	1名	1名	1名	1名
介護支援専門員	1名	0名	0名	1名
生活相談員	1名	0名	0名	1名
事務職員	2名	2名	2名	2名
正職員	1名	1名	1名	1名
パート (よりそいへ異動)	1名 (0名)	1名 (0名)	0名 (1名)	1名 (0名)
看護職員	3名	2名	2名	3名
正職員	2名	2名	2名	2名
パート	1名	0名	0名	1名
機能訓練指導員	2名	1名	2名	1名
管理栄養士	2名	1名	1名	2名
調理員	5名	2名	1名	6名
正職員	3名	2名	1名	4名
パート	2名	0名	0名	2名
介護職員	23名	7名	7名	23名
正職員	17名	2名	4名	15名
パート	6名	5名	3名	8名
介護支援専門員 (ケアライフかなえ)	4名	1名	1名	4名
合計	43名	16名	16名	43名

【住宅型有料老人ホームよりそい・訪問介護よりそい・通所介護よりそい】

職種	R5.4.1 現在 在籍者数	令和5年度		R6.3.31 現在 在籍者数
		入職(異動)者数	退職(異動)者数	
管理者 (ホーム長兼務) (機能訓練指導員兼務) (生活相談員兼務)	2名 (1名) (1名) (0名)	2名 (0名) (0名) (2名)	2名 (0名) (1名) (1名)	2名 (1名) (0名) (1名)
介護支援専門員 (介護職員兼務)	0名 (0名)	1名 (1名)	0名 (0名)	1名 (1名)
事務職員 (パート)	1名 (0名)	1名 (1名)	1名 (0名)	1名 (1名)
生活相談員 (介護職員兼務)	0名 (0名)	1名 (0名)	1名 (0名)	0名 (0名)
正職員 (介護職員兼務) (職種変更)	1名 (1名) (0名)	1名 (0名) (0名)	2名 (0名) (1名)	0名 (0名)
パート (介護職員兼務)	1名 (1名)	0名 (0名)	0名 (0名)	0名 (0名)
機能訓練指導員 (管理者兼務)	1名 (0名)	1名 (0名)	1名 (1名)	1名 (1名)
看護職員 (機能訓練指導員兼務) (生活相談員兼務)	3名 (1名) (1名)	1名 (0名) (0名)	1名 (0名) (0名)	3名 (1名) (1名)
正職員 (機能訓練指導員兼務)	1名 (1名)	0名 (0名)	2名 (0名)	1名 (1名)
パート・嘱託職員 (生活相談員兼務)	2名 (2名)	1名 (0名)	1名 (1名)	2名 (1名)
介護職員	9名	2名	1名	10名
正職員 (職名変更)	7名 (1名)	2名 (0名)	1名 (1名)	8名 (0名)
パート	2名	0名	0名	2名
厨房	3名	0名	0名	3名
合計	19名	7名	8名	21名

## 2. 特別養護老人ホーム かなえ（短期入所生活介護事業所 かなえ併設）

### （1）令和5年度重点目標の達成状況

利用者一人ひとりが、これまでの生活歴や趣味・嗜好などを取り入れた暮らしを継続できるよう、想いや意向を確認しながら、その方らしい暮らしの実現に向けて支援していきます。

→好きな食べ物や日常的に使用していた物品など嗜好品や生活習慣にしていたことをご本人やご家族から情報収集することで、入居前との暮らしが連続したものとなり、穏やかな時間が過ごせるよう取り組むことができた。今後面会の機会も多くなることから、ご家族との関係性をより深めていく必要がある。

住み慣れた地域で安心した暮らしを送り、自分らしい人生の最期を迎えられるよう、多職種及び医師や協力医療機関等と連携を図ることで「医療と介護の円滑な連携」を実践し質の良いサービス提供に取り組めます。

→コロナ禍という限られた時間で、ご本人とご家族が安らかな最期を迎えられるよう、配置医師や多職種で連携を密にとり、その都度心身の状態に合わせたケアの提供やご家族との時間設けることで、利用者ご家族が納得のいく最期を迎えられるよう支援できた。

自立支援に向けて、日常生活の中での機能訓練や生活の見直しを行うことで、利用者の残存機能を活かしている喜びが生きがいへと繋がるようケアの質の向上に努めます。

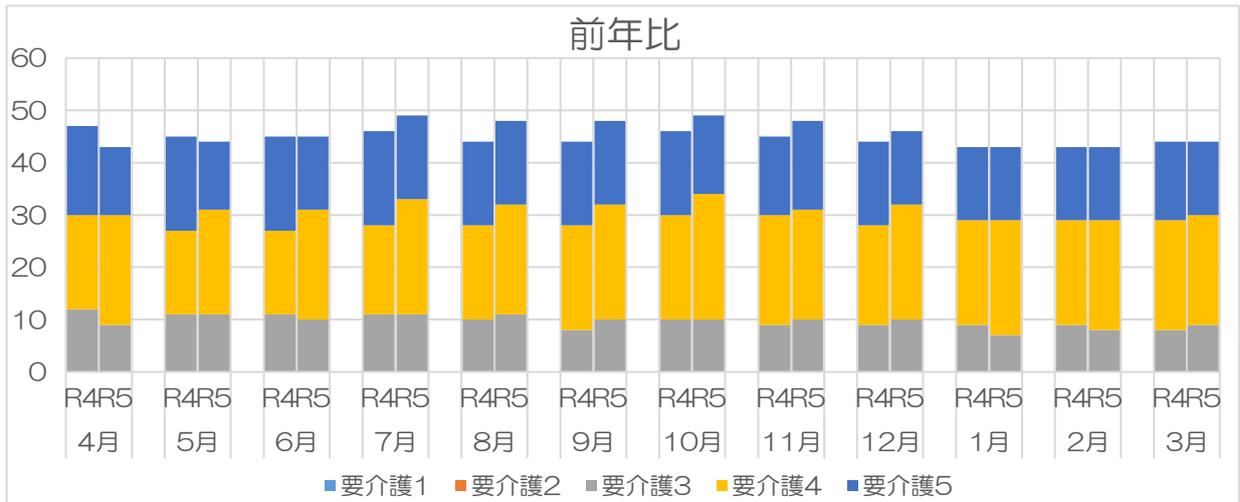
→利用者の状態に合わせ安全に生活できるように、日常生活の中で移乗方法や福祉機器の使用など、ケアの検討や定期的な見直しを行うことができた。職員によりケアに対する違いや意識の差があるため改善していく必要がある。

## (2) 事業実績

### ① 利用人数

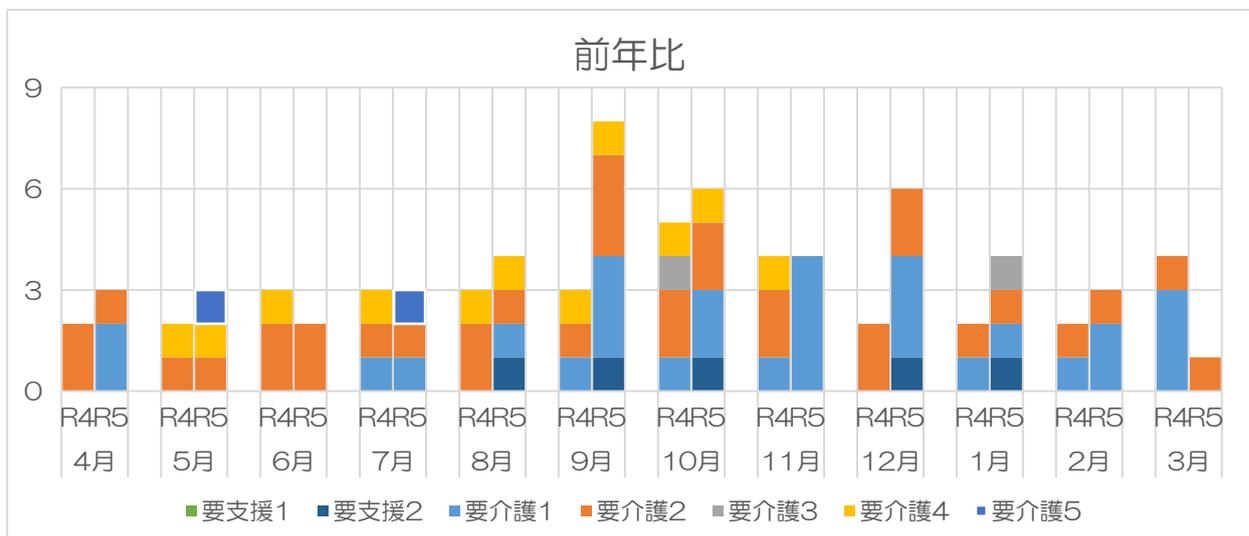
【特別養護老人ホーム】（請求実数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	9	11	10	11	11	10	10	10	10	7	8	9
要介護4	21	20	21	22	21	22	24	21	22	22	21	21
要介護5	13	13	14	16	16	16	15	17	14	14	14	14
合計	43	44	45	49	48	48	49	48	46	43	43	44



【短期入所生活介護事業所】（実人数）

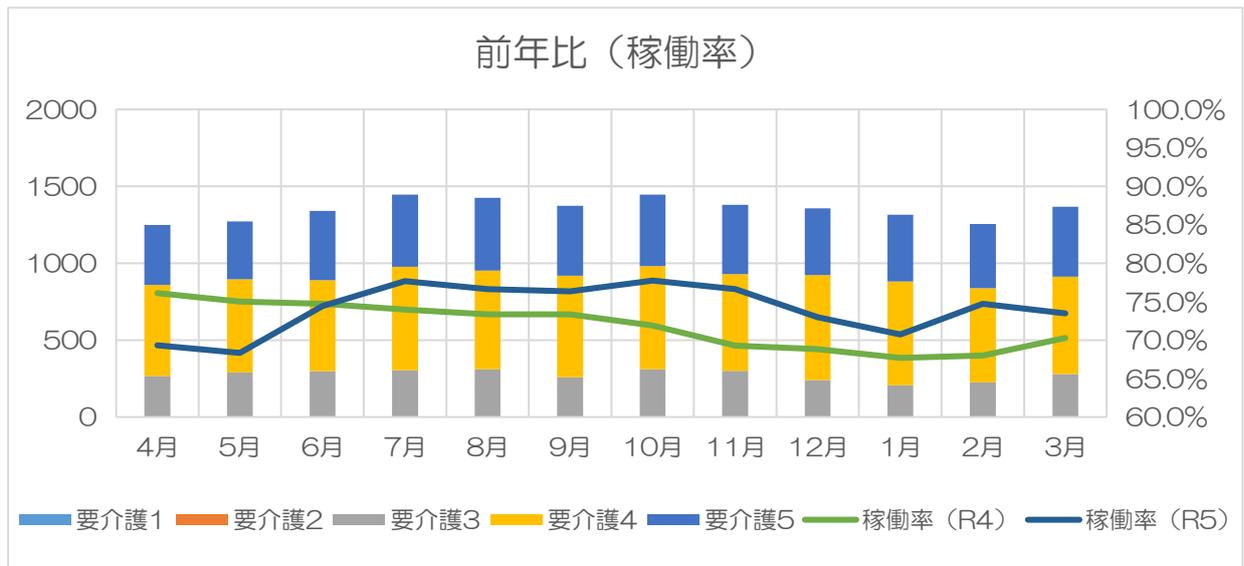
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0
要介護1	2	0	0	1	1	3	2	4	3	1	2	0
要介護2	1	1	2	1	1	3	2	0	2	1	1	1
要介護3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
要介護4	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
要介護5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	3	2	3	4	8	6	4	6	4	3	1



## ② 入居延日数及び稼働率

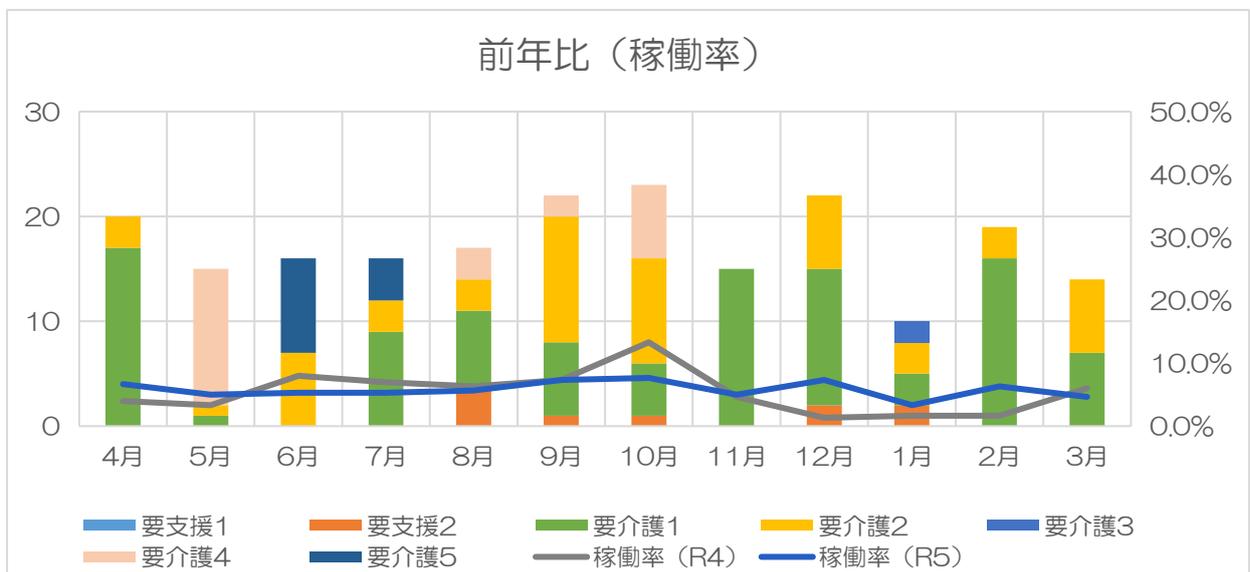
【特別養護老人ホーム】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	267	290	299	305	311	259	310	300	241	206	225	279
要介護4	591	606	591	672	641	660	671	629	682	676	613	633
要介護5	390	375	450	468	473	455	465	450	434	434	417	455
稼働率	69.3%	68.3%	74.4%	77.7%	76.6%	76.3%	77.7%	76.6%	73.0%	70.8%	74.7%	73.5%



【短期入所生活介護事業所】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	4	1	1	0	2	2	0	0
要介護1	17	1	0	9	7	7	5	15	13	3	16	7
要介護2	3	1	7	3	3	12	10	0	7	3	3	7
要介護3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
要介護4	0	13	0	0	3	2	7	0	0	0	0	0
要介護5	0	0	9	4	0	0	0	0	0	0	0	0
稼働率	6.7%	5.0%	5.3%	5.3%	5.7%	7.3%	7.7%	5.0%	7.3%	3.3%	6.3%	4.7%



### (3) 入居者の状況

#### ① 入居者の動向（入居前の居所）

月	在宅	介護施設				医療機関	有料老人ホーム	計
			特養	老健	グループホーム			
4月	1	0	0	0	0	0	0	1
5月	0	0	0	0	0	2	1	3
6月	0	0	0	0	0	0	2	2
7月	1	0	0	0	0	3	0	4
8月	0	1	0	1	0	0	0	1
9月	0	1	0	1	0	0	1	2
10月	0	0	0	0	0	2	0	2
11月	0	0	0	0	0	1	0	1
12月	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	1	1
2月	0	1	0	1	0	1	2	4
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	3	0	3	0	9	7	21

#### ② 退居者の動向（退居後の状況）

月	在宅復帰	介護施設 入所				医療機関 入院	有料老人ホーム 入所	死亡	計
			特養	老健	グループホーム				
4月	0	0	0	0	0	0	0	2	2
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	1	1
7月	0	0	0	0	0	0	0	2	2
8月	0	0	0	0	0	0	0	2	2
9月	0	0	0	0	0	0	0	1	1
10月	1	0	0	0	0	0	0	1	2
11月	0	0	0	0	0	0	0	2	2
12月	0	0	0	0	0	0	0	4	4
1月	0	0	0	0	0	0	0	2	2
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	2	2
計	1	0	0	0	0	0	0	19	20

#### (4) 職種別活動報告

生活相談員
<p>【目標の達成状況】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 利用者自身がその人らしい生活を送ることができるよう、個々に抱えるニーズや課題と向き合い、可能な限りそれらに答えられるように家族や職員等との連携を図りながら、施設という限られた空間でも、その人らしい生活が送れるように支援していきます。 →今年度入居された方は21名で、医療機関からの入居が9名と最多であり、次いで有料老人ホームからの入居が7名、介護老人保健施設からの入居が3名であった。ご本人やご家族の悩みに向き合いながら、多職種と協議し、自宅復帰をされた方も1名おられた。引き続き、個々に抱えるニーズや課題と向き合いながら、安心して施設サービスが受けられるように努めていきたい。</li><li>2. 利用者を主体とした、安心と安全と温もりのあるサービスが継続して提供できるよう、関係職種や機関、外部事業所と情報共有し連携を図るとともに、必要な制度やサービス等の社会資源の活用にも努めます。 →入居前の生活歴等を担当ケアマネジャーやご家族に確認しながら、多職種で情報共有し、ご本人の意向に沿ったサービス提供が行えるように努めた。また、関係機関等からの情報提供を重視し、密な連携を心掛けている。今後も、関係機関や他事業所との連携を密に行い、本人主体のサービス提供が行えるよう努めていきたい。</li></ol>
<p>【年間活動状況及び評価】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 申し込みや事前面談の時点から生活歴や家族背景、生活環境等を適切に情報収集します。施設での生活の中で、趣味や生活歴を活かした個別ケアの充実を図り、可能な限り楽しみや役割を持って暮らし続けられるように支援します。 →感染症対策上、施設内の居室等の見学は行えていないため、パンフレット等を活用しながら入居後の生活がイメージしやすいよう施設内の様子や職員体制等について説明を行い、ご本人やご家族の不安軽減に努めた。また、ご本人の生活歴等の情報をもとに、施設内でも役割や楽しみが持てるように多職種で情報共有を行い、支援に繋げた。</li><li>2. 利用者やご家族からの情報は、関係する全ての職種や医療機関等とも共有し、サービスの質の向上を図ります。地域のなかの施設として、行政機関や各地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等とも連携を密にし、社会資源の活用もしていきます。 →関係機関からの情報を、多職種で共有し、生活の中に取り込めるようにサービスの向上に努めた。医療機関や関係事業所からの情報提供が、住み慣れた地域での暮らしの継続のために重要であるため、連携を密にし、適切な情報収集に努め、今後もサービスの質の向上につなげていきたい。</li><li>3. 感染症拡大や大規模災害などの緊急事態においても事業が継続できるよう、関係職種や機関、外部事業所、さらには地域住民の方々とも連携していきます。 →関係部署や関係事業所と連携を図り、実効性のある計画となるように、事業継続計画の作成を行った。</li></ol>

## 看護

### 【目標の達成状況】

利用者に健やかで快適な生活を維持して頂くために、多職種で連携を図り、日常生活の中から状況の変化をとらえ、疾病の早期発見に努めます。

→事前カンファレンス時に多職種で会議し、利用者の問題点や改善点などを協議することで、ケアにつなげることができた。

新型コロナウイルス感染症の感染対策による面会制限が続いていることもあり、体調に変化が見られた場合はその都度情報共有しご家族への状況説明などこまめに行い、不安の軽減に努めた。

配置医師との連携を行い早期に治療を行う事ができた。

### 【年間活動状況及び評価】

#### 1. 配置医師及び医療関係との連携を図りながら、常に利用者の健康状態に注意し、病状変化を早期発見できるように介護職との連携を図り迅速に対応します。

→配置医師、医療機関へは、9時までに連絡票報告の他口頭での報告を行い、16時には連絡票にて連絡・相談を行ってきた。それ以外の時間はクリニックへ電話連絡を行い、受診の相談や指示を仰ぎ対応できた。夜間帯の病状急変時にはオンコール体制にて、すぐに対応できるよう、介護・看護の連絡を密に行い、医療機関への依頼もスムーズに行う事が出来た。

医療機関受診件数	483件	(入居時検診・定期健診含む)
----------	------	----------------

協力歯科医療機関住診件数	320件
--------------	------

他医療機関受診件数	4件
-----------	----

他医療機関入院件数	2件
-----------	----

#### 2. 介護職員が行う医療的ケアにおいては、配置医師と連携のもと、入居者の症状等状況を把握、判断し安全、かつ適切に実施できるよう指導します。

→医療的ケアを必要とする利用者に対し、介護福祉士認定特定行為業務従事者が、喀痰吸引・胃瘻による経管栄養注入を行うための手技の確認を定期的に実施し、事故・アクシデントの発生はなかった。

看護職員指導のもと、対象者に対し実践での経管栄養注入を行い、事故・アクシデントの発生はなかった。喀痰吸引においてはすべての勤務帯に有資格者配置を行っていたため実践を行っていたが、事故・アクシデント発生はなかった。

#### 3. 看取りについては、入居者だけではなくご家族の不安等に寄り添い、入居者、ご家族が安心して最期を迎えられるよう支援していきます。

→今年度は19名の看取り介護を行った。ご本人やご家族のご意向をくみ取り、苦痛なく最期を迎えられるように、体調に変化がある場合はその都度ご家族へ説明しご意向を確認し、多職種で話し合いを行い、ご本人・ご家族との関わりを検討し支援してきた。

前年度に続き、新型コロナ感染症の感染対策のため面会制限を行っていたため、短時間の面会や、人数制限など満足はいく看取りにはならなかった面もあったが、その都度検討し配慮することで、退居されるときは感謝の言葉をいただくことができた。今後もご本人とご家族が安心して最期を迎えられるよう支援していきたい。

#### 4. 新型コロナウイルス感染対策においては、地域での感染症の流行状況を把握し、流行時は迅速な対応に努めます。

→宮崎県感染症週報や協力医療機関、近隣の状況から感染症の発生状況などを確認し、状況に合わせ医療法人と共通理解のもと面会制限など行ってきた。

職員は出勤前、出勤時、退勤時に検温する、体調不良時は出勤しない、させないを周知し、標準予防策を徹底することで、現在までにインフルエンザ・ノロウイルスにおいても、感染者を一人も出すことな

く経過している。

新型コロナウイルス感染症に関しても、職員の感染は数名見られたが、迅速に対応し感染拡大予防することで入居者への感染者は一人も出さず経過している。

今後も引き続き標準予防策を徹底し、あらゆる感染症に対し予防に努める。

**5. 褥瘡を作らないケアの取り組み、チームケアの一員として専門性を発揮し施設サービスの向上に取り組みます。**

→LIFEにて褥瘡予防計画を作成、3ヶ月毎の評価を行い事前カンファレンス時に多職種で評価を行い情報共有し、改善策を協議した。職員への周知徹底が不十分なところがあったため、次年度は周知徹底もしっかり行えるよう評価を行っていく。

また、多職種でウォーキングカンファレンスを計画には予定していたが、介護職員の参加が難しくなったため実施できていない。

ポジショニングに対しては、機能訓練指導員が評価を行い情報共有し写真を貼るなどしてケアの統一に努めた。

## 介護（特別養護老人ホーム）

### 【目標の達成状況】

1. **利用者の生活がその方らしく、今までの暮らしと連続したものとなるよう、想いを尊重した支援をしていきます。**
  - 利用者の生活歴をもとに、ご本人やご家族からの情報を聞き取り、趣味や習慣、好きな音楽や馴染みのある日用品を取り入れることで、これまでの暮らしと大きく変わることなく落ち着いた生活が送れるように支援することができた。また習慣として食べていた物や嗜好品など、ご家族の協力のもと提供を行うことで、さらに穏やかに過ごせる環境を整えることができた。利用者同士の関係性を深めるため、職員が介入することで馴染みの利用者ができ、更に落ち着いて生活することができていた。
2. **利用者が安心して穏やかな生活を送れるように、施設内外での定期的な研修に参加し、知識や技術の向上に努めていきます。**
  - ケアの質の向上を目指し施設内外での研修に参加した。外部研修ではオンラインと施設外での研修に参加。研修報告書の回覧共有や委員会での情報共有を行った。施設内研修では、委員会を通し資料を作成し、YouTube等の動画の活用も行った。実際に体験型での研修も実施し更にケアの見直しを行うことができた。すべての研修は全員参加型研修とし、ケアや意識の統一を行うことができた。

### 【年間活動状況及び評価】

1. **多職種と日々情報共有を行い連携を図ることで、利用者が生きがいや楽しみを持てるような暮らしを提供し、利用者やご家族の想いに寄り添い穏やかな生活を送ることができるよう支援していきます。**
  - 新型コロナウイルス感染予防のため、クラブ活動や全体での行事の実施は自粛し、各フロアでの活動を行った。夏祭りや敬老会、クリスマス会や年頭行事など、各フロアで職員の手作りやアイデアを生かしたイベントを計画し、利用者の参加率も高く笑顔が多くみられた。
    - 一部面会制限を設ける中で面会を行いご家族との関わる機会も増え、直接的に関係性を高めることができた。また活動状況の写真の郵送やホームページ等で近況報告を定期的に行い、御家族の不安軽減に繋げることができた。利用者に対するご家族の想いをくみ取る中で不足する部分が見られるため、意識を統一することが今後の課題である。
2. **施設内外での研修会に参加し、多職種で意見交換を行いながらお互いに専門性を高め、利用者へ安心した暮らしを提供できるようケアの質の向上に努めます。**
  - 多職種が介護職と一緒に利用者のケアに実際に関わることで、状態に合わせたケアの意見交換を行い、安全に生活のサポートができるよう具体的な検討や改善につなげることができた。
    - 一部では統一したケアの理解不足や各職員の意識の違いの差が見られ、ケアの統一にばらつきがみられる場面もあった。

## 介護（短期入所生活介護事業所）

### 【目標の達成状況】

1. 利用者が在宅での生活を継続するために、自宅と施設生活の違いに不安がないよう関係機関と連携を密にし、安心して過ごせるように支援します。  
→住み慣れた地域で安心した生活が継続できるよう、ご家族や担当ケアマネジャー、関係事業所から情報収集や情報の共有を行いながら支援した。ご自宅での生活状況や意向を聞き、落ち着いて過ごせる環境を提供できるように日課にしているアクティビティ等を取り入れたり、安心して繰り返し利用していただけるように努めた。利用終了後には担当ケアマネジャー、ご本人やご家族からの意見を汲み取り、定期的な利用に繋がるよう支援の改善を行った。
2. 災害や緊急時の受け入れや、福祉避難場所としての役割を意識し、地域の方々が安心して生活できるように努めます。  
→地震や風水害等での災害対策として、避難訓練を行い、BCPをもとに避難場所の経路や備蓄品について確認を行った。また日中や夜間での職員の動きや役割の確認を行う事もできていた。

### 【年間活動状況及び評価】

- ① 住み慣れた地域での生活を継続するために
  - (1) 利用者、ご家族の要望を聞きながら安心して住み慣れた自宅での生活が継続できるよう、利用者の生活歴や心身状態、家族背景を理解し多職種で共有しサポートいたします。
  - (2) 緊急時に適切な対応ができるよう、ケアマネジャーや家族と連携を行い利用者の心身の状態や病歴などの情報共有を行います。
  - (3) 利用前にはご家族、担当ケアマネジャーから自宅での生活リズムや生活環境の情報収集を行い、利用者が自宅での生活との違いに不安や戸惑いがないよう準備いたします。
  - (4) 地域で暮らしている方々の災害時や緊急時の受け入れや、福祉避難所としての役割を把握し、即時対応できるように備えます。

→生活歴や心身状態、家族背景及び意向をこまやかに情報収集し、関係する事業所とも密に連絡を取り情報共有に努め、利用者が現在の生活を継続しながら利用できるよう支援することができた。持病を持ちながらも在宅での生活をされている方に対し、関係機関と連携することで身体状況の変化にもいち早く対応が行え今後のご家族やご本人が安心安全につながるケアができたと感じた。

新型コロナウイルス感染対策を行ったうえで、受入時に状態確認・抗原検査を行うことで、安全に受入をすることができた。今後も安心して利用していただけるよう、取り組んでいく。

台風の経験や他の地域での震災から、様々な災害時に緊急受け入れが出来るよう、定期的に物品や備蓄の確認・見直しを行うことができた。

## 管理栄養士

### 【目標の達成状況】

1. 入居者一人ひとりの身体機能や病歴等に寄り添った、安心安全な食事提供を行い、健康的な生活の実現に向けて支援します。  
→定期的に利用者の現状を把握し、一人ひとりに合わせた食事提供や評価（アセスメント・モニタリング）をすることで、健康状態・栄養状態の維持を図り、健やかな暮らしの支援に繋げることができた。
2. 季節の食材を取り入れながら、行事食やイベント食等、日常とは異なる食事を企画し、日々の変化や楽しみを感じて頂ける食事サービスを提供します。  
→行事食や誕生日メニュー、旬の食材を使用した料理の提供等により、季節感、楽しみや喜びを感じていただけるような食事提供を行った。

### 1. 健康状態や栄養状態を維持するために

- (1) 栄養状態に関する評価（病歴、体重、食事摂取量等）を基に課題を把握し、栄養状態の改善に向けた計画を作成します。作成後は定期的な評価・見直しを行い、食事変更やケアの改善に繋がります。  
→栄養状態の評価（体重測定値、食事摂取量の変化、食事摂取の様子等）を実施し、抽出した課題に基づいた食事内容を検討し、食事提供を行うことができた（栄養ケアマネジメント）。  
栄養ケアマネジメント実施人数：63名（前年度比 4名増）

- (2) 病歴・検査データ・体重等により配置医師が、食事療法が必要と判断した方には、療養食（例減塩食）の提供を行います。

→入居時には、協力医療機関にて検査を行い、その結果から医師が必要と判断した利用者へ療養食の提供を行った。定期健診時は結果に応じた見直しを行い、利用者の状態に合わせた食事提供ができた。  
療養食提供人数：61名（前年度比 4名増）

- (3) 嚥下機能が低下した方に対して、歯科医師・歯科衛生士・多職種と連携し、口腔内の状態、咀嚼・嚥下機能、食事形態等を総合的に評価しケアに繋げることで『口から食べる』ことを支援します。

→日常的な摂取状況を把握する為、ミールラウンドにて食事摂取時の様子を観察し、多職種で共有を図った。食事時の座位や頸部の角度、介助時の一口量やペース等、評価の内容が充実し、状態に合わせた安全な食事提供ができた。

『口から食べる』ことの支援（経口摂取継続の取組み）：4名（前年度 5名）

### 2. 楽しみのある食事を支援するために

季節の食材を使用した食事、行事食やイベント食、新メニューの立案等、バラエティに富んだ献立を提供することで、食事に楽しみを持って頂きます。

→ミールラウンドや嗜好調査等を通して、利用者の意向に寄り添った食事を提供するとともに、季節の行事にちなんだ食事や、季節の食材を使用したメニューを献立に取り入れることで、四季の変化を感じていただけるよう工夫した。

また、毎月『誕生日メニュー』を取り入れており、季節を味わってもらえるよう、月々に応じた内容を企画・実施し、献立に変化をつけ、飽きが来ないように心がけた。

今後も継続し、季節感のあるバラエティに富んだメニューを増やしていきたい。

3. 新型コロナウイルス感染症や大規模災害等の緊急事態に対応できる体制をつくります。非常用備蓄食品の整備、多職種での情報の共有を行います。

→感染症や災害発生時のライフライン停止の影響による対応の見直しを行い、備蓄食品の購入案（内容・献立）作成を行った。今後は購入・整備を行い、保管場所、使用方法等の緊急事態における早急な対応ができるよう多職種での情報共有を徹底していく。

## 機能訓練指導員

### 【目標の達成状況】

1. 一人ひとりの利用者の心身機能の満足感が得られるように、安心して住み続けられるように、多職種と協働し寄り添ったサービスを提供します。
  - 3ヶ月毎の事前カンファレンスにおいて、多職種間で身体機能面に関わる事、トイレや車椅子間の移乗動作方法などの意見交換を行った。
  - 再評価、介助法の伝達を行うことによりサービス内容の質の向上、介助法の統一を図ることができた。

### 【年間活動状況及び評価】

1. 入居者一人ひとりがその人らしい生活を送るために
  - (1) 一人ひとりの心身の状態を定期的に分析し、適切な機能訓練を実施することで安心・安全な生活を送る援助を行います。
    - 週に1回の機能訓練の徹底、日常生活上で、転倒の危険性や帰宅願望など、何か変化が見られた時に、原因の追究や評価を行い、情報共有することで安心して過ごせる環境づくりが多職種協働で実施できた。
  - (2) 小集団での機能訓練を提供することで、他利用者とのコミュニケーションや場の共有を図り、温かい雰囲気づくりを行っていきます。
    - 集団口腔体操や、ボールやお手玉等の道具を使用し、和やかな雰囲気の中で行うことで、普段見られない表情や普段動きがない方でもしっかり動かせるなど反応を引き出すことができた。時には集団ではなく個別での対応の方が集中して行える事もあり、臨機応変に対応を行った。
  - (3) その方らしい生活を送るための住環境と、福祉用具の調整や導入の検討を行います。
    - 入居時に馴染みのある生活用品や家族の写真の持ち込みを促した。トイレや居室ベッドへの移乗が安全に行え、かつ移乗動作能力の維持のために、介助バーの設置を行った。
    - また、看取り介護時や必要時、エアーマットレスの導入を行い褥瘡等の皮膚トラブルの悪化予防を行うことで、最期までその方らしく安楽に過ごせるように、多職種協働で携わることができた。

## 介護支援専門員

### 【目標の達成状況】

1. **利用者一人ひとりの個性や暮らしに対する想いを尊重し、当施設での生活が安心・安全で満足度の高いものとなるようサポートします。**

→今年度より、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行した。しかし、感染症自体がなくなったわけではないため、施設内での感染対策は継続していく必要があり、面会時間等の変更など一部緩和のための見直しを行いつつ面会制限を行ってきた。利用者・ご家族からの様々な意向や要望を踏まえどのような対応が適しているのか多職種で検討し、臨機応変に対応していくよう心がけた。引き続き、施設での基本的な対策を徹底しながらも、利用者の想いを尊重した生活の実現を目指していきたい。

2. **施設内外における多職種連携の要としての役割を自覚し、自己研鑽を重ね、より質の高いサービス提供が可能となるよう努めます。**

→施設外で行われる研修は徐々にオンラインから集合研修に戻り、直接顔を合わせて討議できることのメリットを改めて感じる事ができた。今後も、最新の情報を積極的に収集し、関係職種や外部事業所と情報交換・共有を行っていきたい。

### 【年間活動状況及び評価】

1. **利用者一人ひとりの生活状況や心身状態をはじめ、生活歴や家族背景、趣味・嗜好をこまやかに情報収集し、利用者やご家族の想いに寄り添い、生活の質を高めることができるよう施設サービス計画を策定していきます。**

→新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、病院や施設で行っている入居前調査に複数名で参加できるケースが増えた。多職種で調査を行うことで、さらに幅広い視点で情報収集や課題分析を行うことができたと感じる。担当者会議も定期的に行う事ができ、ご本人の他、ご家族の生活状況の変化や意向も確認していくことができた。今後も、利用者が安心・安全な環境で目標や役割を持って生活できるよう、個別ケアの実践に向け施設サービス計画策定を行ってきたい。

2. **日々変化する利用者の状態把握に努め、過不足なく適切なケアの提供がなされるよう関係職種及び協力医療機関をはじめとする外部関係機関とも密に情報共有を図り、計画の評価や見直しを行います。**

→多職種で個別のケース検討を行うことで、幅広い視点で利用者一人ひとりの心身状態の変化の把握が行えている。今年度は、ケース検討に使用する情報は提供用紙を見直し、より具体的な情報収集が行えるように作成し直し、細かな点まで評価できるようにした。現状として、施設サービス計画の内容と実際の介護状況が繋がっていない状況が散見されるため、計画内容を全職種が見る機会を増やす工夫を行っていくこととケア記録の内容の充実が今後の課題である。

3. **感染症や大規模災害に対応できる切れ目のない介護・医療体制の構築に向けて、整備や必要な情報発信を行うことで、利用者やご家族の不安軽減を図り、信頼関係をより強固なものにしていきます。**

→施設内のBCP委員会へ参加し、多職種で事業継続計画の策定に取り組むことができた。次年度からは義務化され、勉強会や訓練等も必須となってくる。利用者やご家族に少しでも安心してサービス利用を継続してもらえるようにしていきたい。

4. **施設内外の研修へ積極的に参加し、介護支援専門員としての質の向上に努めます。**

→今年度は、介護支援専門員協会の研修の他、ICT活用のセミナーや福祉機器のフェア、介護報酬改定に向けた研修などに参加することができた。特に、ICT活用や介護報酬改定に関する研修は、次年度以降のサービス提供に直結する事項も多く、多職種で連携し取り組んでいく必要性を痛感させられる内容であった。今後も積極的に情報収集を行ってきたい。

## (5) 委員会活動報告

入居判定委員会																											
<p>【活動目標の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当施設における「入居判定指針」に基づき入居申込者の介護の必要の程度及び家族等の状況を勘案し、施設サービスを受ける必要性の高さにより入居の順位を確定する。 →今年度は、23 名の入居判定を実施した。身体状況の急変や認知機能面の悪化により入院加療を要し、在宅生活の継続が困難となる事例が複数あり、「入居判定指針」に基づき入居申込者の介護の必要の程度及び家族等の状況を勘案し、施設サービスを受ける必要性を見極め、入居の順位を確定することができた。今後も、要介護者を取り巻く環境や施策の動向に注視しながら、適切な入居判定を行っていきたい。</li> <li>• 要介護 1 及び 2 の方であっても、やむを得ない事情により当施設以外での生活が著しく困難であると認められる場合の入居判定を行う。(特列入居の判定) →特列入居の実績はなかった。当施設の役割を自覚し、やむを得ない事情により特列入居に該当する方の支援ができるよう行政機関や地域包括支援センター等と密な連携に努めたい。</li> </ul>																											
<p>【年間活動状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>具体的活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>申込者 3 名判定。結果：判定可 3 名、判定否 0 名、保留 0 名</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>申込者 4 名判定。結果：判定可 4 名、判定否 0 名、保留 0 名</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>申込者 4 名判定。結果：判定可 3 名、判定否 1 名、保留 0 名</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>対象者なし</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名</td> </tr> </tbody> </table>		月	具体的活動内容	4月	申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名	5月	申込者 3 名判定。結果：判定可 3 名、判定否 0 名、保留 0 名	6月	申込者 4 名判定。結果：判定可 4 名、判定否 0 名、保留 0 名	7月	申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名	8月	申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名	9月	申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名	10月	申込者 4 名判定。結果：判定可 3 名、判定否 1 名、保留 0 名	11月	対象者なし	12月	申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名	1月	申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名	2月	申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名	3月	申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名
月	具体的活動内容																										
4月	申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名																										
5月	申込者 3 名判定。結果：判定可 3 名、判定否 0 名、保留 0 名																										
6月	申込者 4 名判定。結果：判定可 4 名、判定否 0 名、保留 0 名																										
7月	申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名																										
8月	申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名																										
9月	申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名																										
10月	申込者 4 名判定。結果：判定可 3 名、判定否 1 名、保留 0 名																										
11月	対象者なし																										
12月	申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名																										
1月	申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名																										
2月	申込者 2 名判定。結果：判定可 2 名、判定否 0 名、保留 0 名																										
3月	申込者 1 名判定。結果：判定可 1 名、判定否 0 名、保留 0 名																										

褥瘡対策・排泄委員会

【活動目標の評価】

- 褥瘡予防・早期発見に努め、精査を行い多職種で協働し改善案を検討して、適切に実施します。  
→LIFE を用いて褥瘡対策計画書を3ヶ月毎に作成し、事前カンファレンス時に多職種で評価・検討を行った。今後も適宜多職種でのこまめな情報共有と連携を図り、早期発見・対応に繋げていく。
- 研修会やウォーキングカンファレンスを企画し、職員のケアへの意識を高め、知識・技術の向上を図ります。  
→研修会では、オムツの当て方をメーカーの動画を用いて確認し、技術の向上を図ったが、感染対策により、当初予定していた実践を行うことができなかった。ポジショニングの基本と基礎知識では、感染対策により、集合型での勉強会は開催することができなかったため、来年度は実践形式での勉強会を実施し、職員への指導と、技術向上に繋げていきたい。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回      研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 活動目標の確認と共有</li> <li>• 使用オムツ製品の評価</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 第1回研修打ち合わせ</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第1回研修 「ポジショニングの基本と基礎知識」</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第1回研修の振り返り</li> <li>• ウォーキングカンファレンス打ち合わせ</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ウォーキングカンファレンス</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ウォーキングカンファレンスの振り返り</li> <li>• 第2回研修の打ち合わせ</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第2回研修 「オムツの当て方」</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第2回研修の振り返り</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ウォーキングカンファレンス打ち合わせ</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ウォーキングカンファレンス</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ウォーキングカンファレンスの振り返り</li> <li>• 1年間の振り返り</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1年間の振り返りから課題・提示・検討</li> <li>• 次年度事業計画作成</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• 褥瘡ケア計画書の確認</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 次年度事業計画の確認</li> <li>• 褥瘡発生者経過報告</li> <li>• オムツの使用状況報告</li> </ul>

栄養管理委員会

【活動目標の評価】

- 食事サービスの実施状況を把握し、改善事項の抽出や対策を多職種で検討することで食生活の質の向上を図ります。また、各種イベント食の企画・開催し、年間を通して入居者への食の楽しさを提供します。

→嗜好調査、検食の見直しを実施し、調査結果や検食の内容を献立やメニューへ反映することができた。  
 また、調理リーダーを委員会に加え、嚥下調整食（食事量や食形態）の見直しや評価、マニュアル作成を行い、咀嚼・嚥下状態に合わせた食事の提供を行うことができた。今後、食事に対する楽しさを増やすためにも、ミールラウンドでの食事状況の観察や多職種との情報交換を行い、利用者の世代や時代背景を考慮した食事提供を行っていく。行事食は季節毎に企画し、提供することができたが、感染対策により小規模であったため、今後は多職種で協力し企画・開催回数を増やし、利用者が楽しんでいただけるよう取り組んでいく。

- 施設内における食中毒の発生及びまん延を予防します。

→各ユニットのキッチン周りは、カトラリー（箸やコップ等）の衛生管理を徹底できていたが、整理整頓が不十分な点があった。感染対策委員会と連携し、マニュアルの活用方法や啓蒙活動を行い、食中毒予防に努めていく。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回      研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容	
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 活動目標の確認と共有</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お花見御膳</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修会打合せ（食中毒予防）</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 端午の節句料理</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修会の実施（食中毒予防）</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 紫陽花御膳</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修会打合せ（とろみ剤）</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 七夕料理</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修会の実施（とろみ剤）</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お盆料理</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修会の実施（とろみ剤）</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 敬老のお祝い料理</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 嗜好調査の実施（10月下旬～11月上旬）</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 紅葉御膳</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 嗜好調査の実施（10月下旬～11月上旬）</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 霜月御前</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 嗜好調査の結果報告</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• クリスマス料理 大晦日</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1年間の活動の振り返り</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• お正月料理</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 次年度の計画作成</li> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 節分料理</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 食事提供状況の把握、改善事項の抽出、対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 桃の節句料理</li> </ul>

## 感染対策委員会

### 【活動目標の評価】

- **集団感染が発生した場合に備えBCPを策定し業務継続できるようにします。**  
→新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症に関して集団感染はなかった。  
BCP策定はBCP委員会を中心に策定してきたが、職員への共有は完全ではないため、来年度は周知できるように情報の共有を行っていく。
- **感染症発生時に必要な衛生資材の確保と管理を行い、多職種で情報共有し迅速な対応に努めます。**  
→感染症週報の他、ニュースや新聞などの情報にも注意し、感染状況により協力医療機関と連携し対応を検討した。職員の感染予防対策のための対応は継続して行った。  
衛生資材は、各ユニットに設置しており毎月感染対策委員会メンバーが中心となり在庫管理を行った。  
集団発生した時に不足にならないよう委員以外の職員への周知も行った。
- **職員一人一人が感染症の正しい知識を習得し感染予防に取り組むための勉強会を実施します。**  
→感染対策のため、集団での実践的な勉強会は今年度もできなかったが、防護服の着脱やごみ処理の仕方など動画を各自視聴しレポート提出することで知識の習得を図った。  
来年度は実践での勉強会を行い、問題点などの改善に努めたい。
- **日常から入居者の健康状態を把握し、感染症状が発生時迅速に対応します。**  
→発熱や嘔吐下痢などの体調不良者発生時は、多職種で情報共有を行い、協力医療機関へ報告し検査をするとともに、隔離対応など早めに行うことで感染の拡大を予防することができた。

### 【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回

研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容
4月	・活動目標と内容の確認 ・感染防止対策マニュアルの確認と見直し 感染症発生時フローチャート作成
5月	・第1回委員会研修打ち合わせ ・エアコン清掃（夏季）
6月	・第1回委員会研修（食中毒予防・標準予防策） ・ベランダ・窓清掃（夏の大清掃）打合せ
7月	・第1回委員会研修振り返り 反省 ・ベランダ・窓清掃（夏の大清掃）
8月	・エアコン清掃（秋）打合せ
9月	・エアコン清掃（秋） ・半年間の振り返り
10月	・第2回委員会研修の打ち合わせ ・加湿器準備、取り扱い調査
11月	・第2回委員会研修（感染対策、防護服の着脱について） ・年末大清掃の打合せ
12月	・第2回委員会研修振り返り 反省 ・年末大清掃
1月	・1年間の振り返り、反省
2月	・次年度事業計画作成
3月	・次年度事業計画作成 ・事業報告書作成

医療的ケア推進委員会

【活動目標の評価】

- 経管栄養、喀痰吸引を、利用者の状態に応じて安全かつ適正に実施できるよう手技確認を行い、知識や技術の向上に努めます。

→介護福祉士が看護師とともに医療的ケア（喀痰吸引、胃瘻による経管栄養注入）を実施し、事故やアクシデントもなく経過しているが、介護福祉士が行う際利用者の状態に応じて適正に実施出来る事への不安も大きかった。次年度は、手技確認の回数を増やし不安の軽減と安全かつ適正に実施出来るよう、技術及び知識の向上に努めていく。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回                      研修：1 回

月	具体的活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 活動目標の確認と共有</li> <li>• 手順書の確認</li> <li>• 具体的な活動内容の検討</li> <li>• 手技確認予定表の作成</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認</li> <li>• 研修の打ち合わせ</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 医療的ケア研修「急変時対応と他のスタッフの役割周知を図る」</li> <li>• 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修の振り返り</li> <li>• 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 半年間の振り返り</li> <li>• 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1年間の振り返り</li> <li>• 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1年間の振り返りの問題抽出と対策の検討</li> <li>• 経管栄養、喀痰吸引の手技確認、手法の確認</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 次年度の計画の作成</li> <li>• 医療的ケア対象入居者の状況報告</li> </ul>

リスクマネジメント委員会

【活動目標の評価】

- 事故防止及び身体拘束廃止等に関する指針・マニュアルを踏まえ、事故等の減少につなげるために、利用者個々の状況に合わせた対応を職員間で共有していきます。

→事故・アクシデント・ヒヤリハットと項目を分け、発生時の分析や要因について検討を行い、利用者に向けたケアの見直しを行っている。職員間での対策の共有がうまく出来ておらず、困惑する様子が見られていた。事故・アクシデントが起こった際は、全ユニットへ報告書を配布し、職員間での情報共有に努めていく。また、事故防止の意識が時間経過と共に低下していく事も考えられる為、委員会を通じ啓発を呼び掛けていく。ヒヤリハットに関しては、今年度は報告が少なくなっている。リスクマネジメント委員会よりヒヤリハットの報告を促し、小さなヒヤリハットに目を向け事故に繋がる前に危険予知の意識を高めていく。

- 施設全体の事故防止や身体拘束廃止への意識向上を図るため、現場の実情に即した研修会を企画・開催し、安全な日常の支援に反映できるように多職種で評価し改善を図ります。

→施設内研修にて、事故・身体拘束防止の勉強会を行っている。実際にあった事例を元に、職員間での意見交換を行う事で、ケアの振り返りにも繋がっている。また、利用者の状態に合わせ気付きなどの意見も聞かれている。

- 火災・風水害などを想定した訓練の実施や、防災用品及び備品の維持管理、職員に対し防災意識向上のための啓発活動を行います。

→法令に基づき年2回の防災訓練を計画立案し、利用者・職員参加のもと訓練を実施できた。消防への通報訓練や消火器の使用法、設置場所の確認も同時に行い災害対策へ備え意識を高める事ができた。

【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回

研修会開催数： 2 回

月	具体的活動内容		
4月	・活動計画の確認、共有	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討
5月	・事故防止指針・マニュアル及び連絡体制の見直し、整備	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・予防対策分析、検討
6月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・研修内容打ち合わせ	・予防対策分析、検討 ・部署訪問（事故・身体拘束防止検討）
7月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・第1回リスクマネジメント及び身体拘束に関する研修会開催	・予防対策分析、検討
8月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認		・予防対策分析、検討
9月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認		・予防対策分析、検討 ・総合防災訓練
10月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・身体拘束及び苦情の状況確認	・予防対策分析、検討
11月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・研修内容打ち合わせ	・予防対策分析、検討 ・部署訪問（事故・身体拘束防止検討）
12月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認		・予防対策分析、検討
1月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認		・予防対策分析、検討 ・1年間の活動の振り返り
2月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認		・予防対策分析、検討 ・次年度事業計画作成
3月	・事故等及び身体拘束・苦情状況確認	・部署訪問（事故・身体拘束防止検討）	・予防対策分析、検討 ・今年度の反省 ・総合防災訓練 ・第2回リスクマネジメント及び身体拘束に関する研修会開催

## 行事委員会

### 【活動目標の評価】

- 入居者の生きがいづくりや心身機能の維持に繋がるように、四季折々の行事・活動や設えの充実を図ります。

→昨年に引き続き新型コロナウイルス感染予防のため、大掛かりな催し物は自粛しフロアでの活動に変更し実施した。催し物の際は設えを工夫し、季節を感じられる活動の提案を積極的に行ったことで、利用者は雰囲気を感じながら楽しむ事ができ、普段とは違う表情を見ることができた。

- 施設内での活動や取り組みの様子を、ホームページを中心に広報し、施設と御家族、地域の方等の閲覧者との情報共有を図ります。

→ご家族に対し、活動や取り組みの様子の写真を手紙と一緒に郵送したり、ホームページに活動内容を掲載することで、日頃の様子を伝えることができ、安心して頂くことができた。ホームページについては更新のタイミングが遅くなる月もあったため、迅速に対応しながら、施設の活動や取り組みの様子を施設外に積極的に広報していきたい。

### 【年間活動状況】

委員会開催数： 12 回

月	具体的活動内容
4月	・行事食（お花見弁当） ・次月行事企画
5月	・行事食（端午の節句料理）・行事企画（夏祭り） ・ユニット行事（母の日）
6月	・行事食（紫陽花弁当） ・行事打ち合わせ（夏祭り） ・ユニット行事（父の日）
7月	・行事食（七夕料理） ・行事打ち合わせ（夏祭り） ・ユニット行事（七夕）おやつ作り（かき氷）
8月	・行事食（お盆料理） ・次月行事企画 ・ユニット行事（夏祭り）
9月	・行事食（敬老のお祝い料理）・ユニット行事（敬老会）
10月	・行事食（駅弁の旅） ・行事企画（クリスマス会） ・ユニット行事（おやつ作り）
11月	・行事食（紅葉弁当） ・行事企画（餅つき） ・ユニット行事（おやつ作り）・行事打ち合わせ（クリスマス会）
12月	・行事食（クリスマス料理） ・ユニット行事（クリスマス会）
1月	・行事食（お正月料理） ・ユニット行事（初詣） ・1年間の振り返り
2月	・行事食（節分料理） ・ユニット行事（節分） ・活動計画内容確認
3月	・行事食（桃の節句料理） ・ユニット行事（ひな祭り） ・次年度事業計画提出

## 看取り介護委員会

### 【活動目標の評価】

- **看取りケアについて職員が理解するための研修を年1回実施します。**  
→看取り期の変化や必要な手順など勉強会に盛り込むことで理解の統一は図れたが、最期を迎える心構えや行動に結びついていないと感じた。自発的に取り組めるよう意識付けをしていきたい。
- **看取り介護加算について理解します。**  
→勉強会を通し当施設で算定している加算内容を理解することができた。
- **多職種で統一したケアを提供するため、情報共有をしっかりと行います。**  
→密に連携を取り日々の情報共有に努めたが、ケアに偏りがあった。再度、職員間での情報共有やケアの統一を図るため見直しの必要がある。
- **配置医師との連携を行い、職員の不安の緩和に努めます。**  
→24時間看護職員を通して協力医療機関や配置医師と連携がとれる体制を整えておくことで、夜間帯の看取りについても不安軽減につながっている。また、未経験の職員に対しては、実際にエンゼルケアの見学を行い体験の場を設けることができた。
- **グリーフケアの実施を行います。**  
→実践することはできなかったが、勉強会で内容を理解するよう努めた。今後関わりのあった職員と取り組めることから実施していきたい。

### 【年間活動状況】

委員会開催数： 6回      研修： 1回

月	具体的活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 指針・マニュアルの作成、見直し</li> <li>• 看取り介護計画書の見直し</li> <li>• 看取り期の利用者状況確認・報告</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 看取り期の利用者状況確認・報告</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 看取り期の利用者状況確認・報告</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 看取り期の利用者状況確認・報告</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 看取り期の利用者状況確認・報告</li> <li>• 施設内研修の打ち合わせ</li> <li>• 一年間の振り返り</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 施設内研修実施・振り返り</li> <li>• 次年度事業計画書式作成</li> </ul>

## BCP 委員会

### 【活動目標の評価】

- 全ての災害時に対し、適切な対策を検討し、必要なサービスを継続的に提供できるよう、事業継続計画（BCP）を策定し体制の構築を行います。

→感染症編と自然災害編の2つのBCP作成に向け、各職員の共通理解の浸透を心掛けた。策定に向けて厚労省HPから導入に向けての動画研修を行い、BCPに関する取り組み方を学んだ。各部署の担当により、必要物品の種類や数量を確認し再検討を行った。

- 訓練の実施や防災用品・貯蓄備品・非常食の維持・管理を行い、職員への意識啓発・周知を行います。

→実際の災害を想定した動画視聴、災害時の対策方法、新しい防災備品の紹介などを行った。机上訓練を実施して、より具体的な想定をしながらBCP策定に反映させた。今後は実際の訓練を行い、細部にわたる反省点などを活かし改定していきたい。

### 【年間活動状況】

委員会開催数： 12回      研修： 2回

月	具体的活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 活動計画の確認、共有</li> <li>• BCPについての共通理解の浸透</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• BCP作成に伴う役割分担の検討</li> <li>• 防災用品・貯蓄備品・非常食の確認</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 感染症編 各担当の進捗状況の報告・確認、協議</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 感染症編 各担当の進捗状況の報告・確認、協議</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 感染症編（案）の完成</li> <li>• 職員向けBCP勉強会について協議</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自然災害編 各担当の進捗状況の報告・確認、協議</li> <li>• 職員向けBCP勉強会について協議</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自然災害編 各担当の進捗状況の報告・確認、協議</li> <li>• 9月実施総合防災訓練をととしてBCPの見直し</li> <li>• 職員向けBCP勉強会の開催（感染症編）</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自然災害編（案）の完成</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 両編の最終確認・照らし合わせ・修正</li> <li>• 職員向けBCP勉強会について協議</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 委員向け勉強会（BCP完成版の読み合わせ）</li> <li>• 職員向けBCP勉強会について協議</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 職員向けBCP勉強会の開催（自然災害編）</li> <li>• 次年度事業計画作成</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今年度の反省</li> <li>• 3月実施総合防災訓練をととしてBCPの見直し</li> </ul>

## (6) 研修会

### ① 施設内研修

開催日	研修内容	講師
5月	褥瘡予防 (ポジショニングの基本と基礎知識) ポジショニングの動画視聴後、穴埋めレポートを提出	褥瘡対策・排泄委員会
6月	感染対策 (標準予防策について) 動画視聴後、感想等をレポートにて提出	感染対策委員会
	食中毒研修 (食中毒の基礎知識、予防に対するの注意点の確認、正しい手洗いの実践) 食中毒についての資料、手洗いの実践でのレポート提出	栄養管理委員会
7月	リスクマネジメント (身体拘束とヒューマンエラーについて) 身体拘束は配布された資料でチェック項目記入後提出 ヒューマンエラーは動画視聴後レポート提出	リスクマネジメント委員会
8月	医療的ケア (緊急時の対応について) 動画視聴及びハイムリック法・背部叩打法の実技	医療的ケア推進委員会
	トロミ剤についての研修 (使用目的・量・方法、対象者の特徴、お茶ゼリー・トロミ汁試飲)	栄養管理委員会
9月	褥瘡予防 (おむつの当て方) おむつの当て方の動画を視聴	褥瘡対策・排泄委員会
10月	BCP BCP(感染症編)の説明	BCP委員会
11月	感染 (防護服着脱について) 防護服着脱について実践	感染対策委員会
3月	リスクマネジメント (身体拘束と虐待について) スピーチロックと心理的虐待の動画視聴後、穴埋め式レポートを提出	リスクマネジメント委員会
	看取りについて (看取り期の対応を理解する。看取り加算やグリーフケアの内容を理解する。) 資料配布し穴埋め式レポートを提出	看取り介護委員会

※新型コロナウイルス感染予防のため、集合研修を中止し資料配布及びレポート提出、または少人数単位で複数回実施へ変更とした。

② 施設外研修

開催日	研修の名称	研修の内容	参加職種
6月11日(火)	記録の書き方研修(高齢者)	記録は書くだけでなく、読むことも大切であると理解し、記録作成のポイントや、より良いケアにつなげるための記録の活用について実践的に学ぶ。	介護職員
6月26日(水)	チーム力を高めるコミュニケーション研修 初任者編	組織(チーム)でのコミュニケーションが、円滑な業務遂行や組織(チーム)の成長のために必要であることを認識し、初任者に求められる基本のコミュニケーションを学ぶ。	介護職員
7月24日(水)	メンバーシップ研修 中堅職員編	組織(チーム)における中堅職員の位置づけや役割を理解し、後輩・上司との人間関係スキルなど、組織の目標達成に寄与するためのメンバーシップを学ぶ。	介護職員
7月26日(金)	職員定着につなげるための評価者育成研修	職員定着につなげるためにキャリアパス制度等の構築が進む中、人事評価等において必要となる評価の考え方や面談の具体的な技法について学ぶ。	介護職員
8月6日(火) 8月7日(水)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース	福祉職員のキャリアパスに応じた資質の向上の支援と、各法人・事業所におけるキャリアパス制度構築や人材育成体制整備の支援を目的とする。	介護職員
8月8日(木) 8月9日(金)	災害対応力強化研修	社会福祉施設・事業所に求められる災害時の役割について、熊本地震等での実例や、災害時の避難所運営を想定した演習等を通じて理解する。	介護職員
9月2日(月)	職務を通じて後輩を育てるOJT研修 チームリーダーコース	直接OJT指導を行う職員とともに、その上司も「OJT(職務を通じての研修)」についての基本的な考え方や推進方法を理解し、組織で人材育成を行う意義を学ぶ。	介護職員
9月2日(月) 9月3日(火) 10月24日(木)	職務を通じて後輩を育てるOJT研修 中堅職員コース	「OJT」についての基本的な考え方や推進方法を理解するとともに、チームリーダーと連携した職場づくりと人材育成の方法について学ぶ。	介護職員
10月3日(木)	業務改善のすすめ方研修 管理職員編	法人・事業所内の業務システム化(DX)を推進し、安心して働くことのできる職場環境となるよう整備する。	介護職員
11月12日(火) 11月13日(水)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース	福祉職員のキャリアパスに応じた資質の向上の支援と、各法人・事業所におけるキャリアパス制度構築や人材育成体制整備の支援を目的とする。	介護職員
11月26日(火)	介護現場におけるリスクマネジメント研修	リーダー自身がリスクという概念を理解したマネジメントを実現するため、リスクマネジメントの基本とそのプロセスを学び、リスクへの対応力を強化する。	介護職員
12月17日(火) 12月18日(水)	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース	福祉職員のキャリアパスに応じた資質の向上の支援と、各法人・事業所におけるキャリアパス制度構築や人材育成体制整備の支援を目的とする。	介護職員
1月31日(金)	プリセプター研修	新規採用者が一人前になるまで安心して業務に取り組める環境づくりや成長の支援など、プリセプター(育成担当者)としての役割行動を理解する。	介護職員
2月5日(水)	福祉職員のための医学基礎知識研修(大人)	日ごろから医療関係職種と連携して利用者の支援ができるよう、高齢者の多くにみられる症状や薬剤の基礎知識を学ぶ。	介護職員

### 3. ケアライフ かなえ

#### (1) 令和5年度重点目標の達成状況

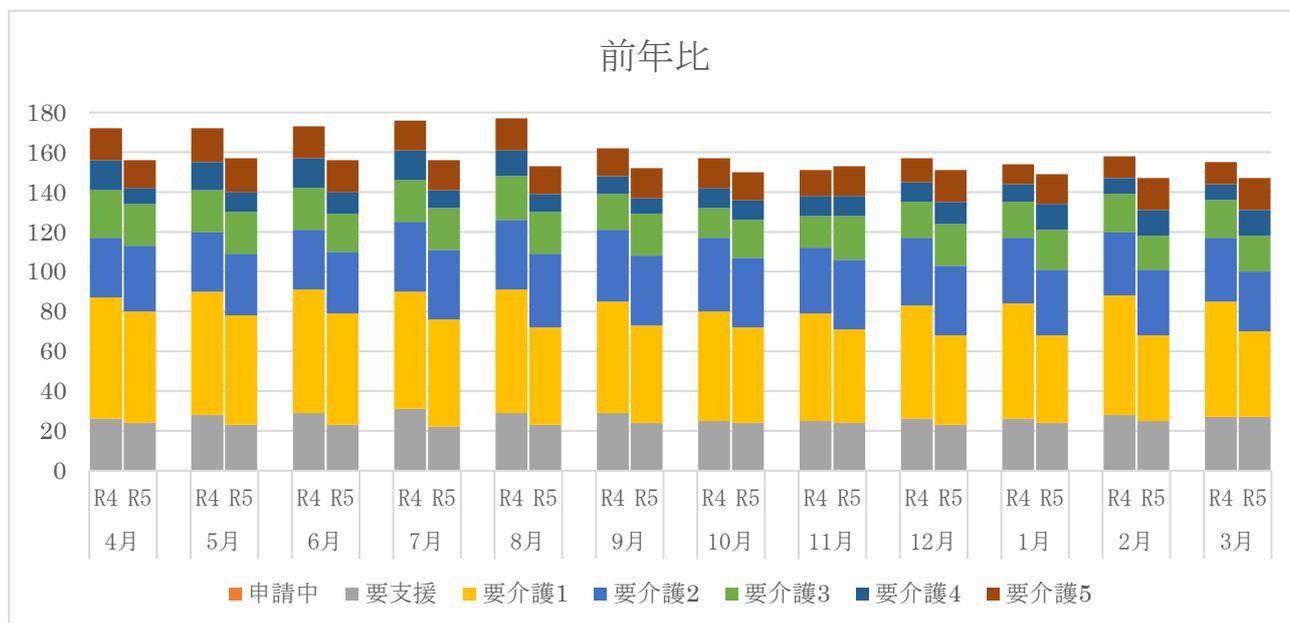
超高齢化社会に求められる介護サービスやニーズを把握し、地域や行政、医療、関係機関との連携を図り、地域包括ケアシステムの構築に参加し、専門職として質の高い自立支援に向けたケアマネジメントを提供します。災害や感染症への対応力を強化し、利用者に必要なサービスを提供していく体制の確保に努めます。

→介護を必要とする高齢者や障がい者、特定疾患を持った利用者が地域でこれまで営んできた生活を継続する事が出来るよう、利用者・家族の意向を尊重し、自立に向けた支援の検討・調整を行ってきた。合わせて、行政及び地域包括支援センターをはじめとする関係機関や、各サービス事業所等との連携も密に行い、地域で求められているサービスや課題の把握に努めてきた。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となり、研修等への参加も再開となり Zoom 等のオンライン研修も継続して行われており、情報収集や医療、多職種との連携は継続し行っている。今後も感染対策や感染状況に併せ、これまで以上に、徹底して質の高いケアマネジメントを行っていききたい。

#### (2) 事業実績

##### ①登録者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援	24	23	23	22	23	24	24	24	23	24	25	27
要介護1	56	55	56	54	49	49	48	47	45	44	43	43
要介護2	33	31	31	35	37	35	35	35	35	33	33	30
要介護3	21	21	19	21	21	21	19	22	21	20	17	18
要介護4	8	10	11	9	9	8	10	10	11	13	13	13
要介護5	14	17	16	15	14	15	14	15	16	15	16	16
合計	156	157	156	156	153	152	150	153	151	149	147	147
ケアマネジャー 在籍数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4



## 4. 住宅型有料老人ホームよりそい

### (1) 令和5年度重点目標の達成状況

住み慣れた地域で暮らすことができる「地域包括ケア」実現を目指し、個々のニーズに対応でき、特に医療を必要とする方々が安心して生活していただける居住施設とする。また、併設の事業所サービスを併用することで、入居者情報の共有を図り、新しい取り組みに挑戦することができ、高稼働率の維持・継続を図る。

→令和6年4月からの<介護付き有料老人ホーム>開設に向け、継続して安心できる施設生活を送れるよう、また、これまでの介護保険サービスとの違いなど、家族会を開催しご家族やご本人に丁寧に説明を行い、信頼関係構築に努めた。

#### 【サービスの内容】

##### ① 個別ケアの実践

→一人ひとりのADLや想いが反映できるよう考慮した介助を行った。

##### ② 食事介助

→体調管理に留意し、出来る限り経口摂取が継続できるよう、食事形態やメニューにも配慮した。

##### ③ 排泄介助

→排泄の自立を促す為、利用者の身体機能を活かした援助を行った。

##### ④ 服薬管理・服薬介助

→ご家族やご本人の意向をくみ取り、薬局・クリニックとも連携を図った。

##### ⑤ 健康管理

→主治医や薬局、ご家族などと連携を図り、健やかな生活が維持できるよう努め、また居室環境整備なども行った。

##### ⑥ 福祉用具の活用

→多職種での話し合いの場を設け、福祉用具事業所と連携を図り、ご本人に合う福祉用具の選定や、ご本人、ご家族への助言等を一緒に行った。

##### ⑦ 秘密保持と個人情報保護

→職員に周知し、情報の取り扱いなどに注意した。

##### ⑧ 身体拘束廃止、高齢者虐待防止

→定期的に委員会や勉強会などを通し職員への周知徹底を行った。

##### ⑨ 地域・多職種との連携

→主治医やケアマネ等多職種との連携、また、入居申し込みや見学等の受け入れを行い、地域の方々の相談業務も行った。

##### ⑩ 資質及び専門性の向上

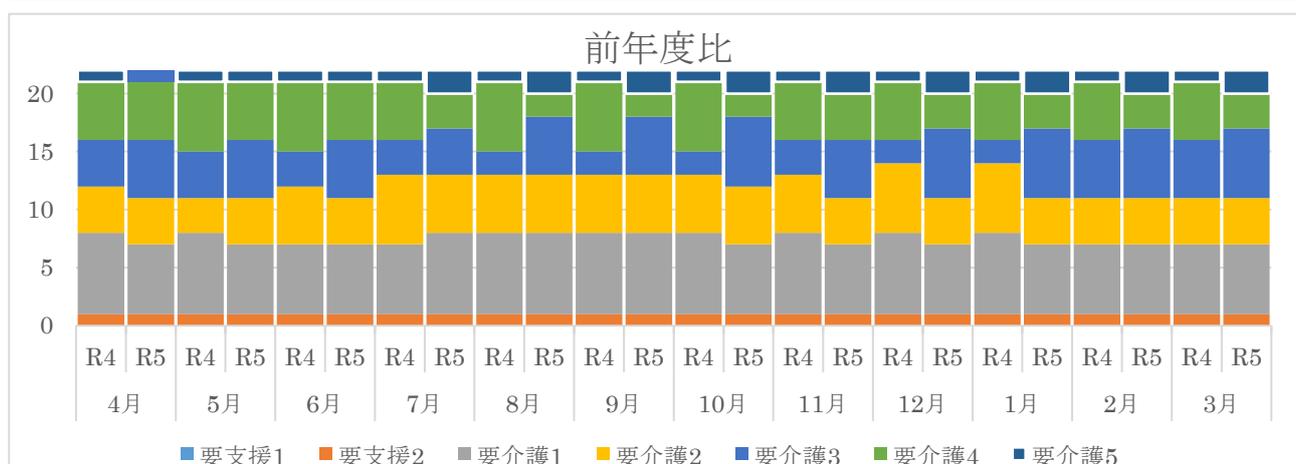
→定期的な勉強会を開催し、業務改善を目的とした中で専門性の再確認などを行った。

## (2) 事業実績

### ① 利用人数

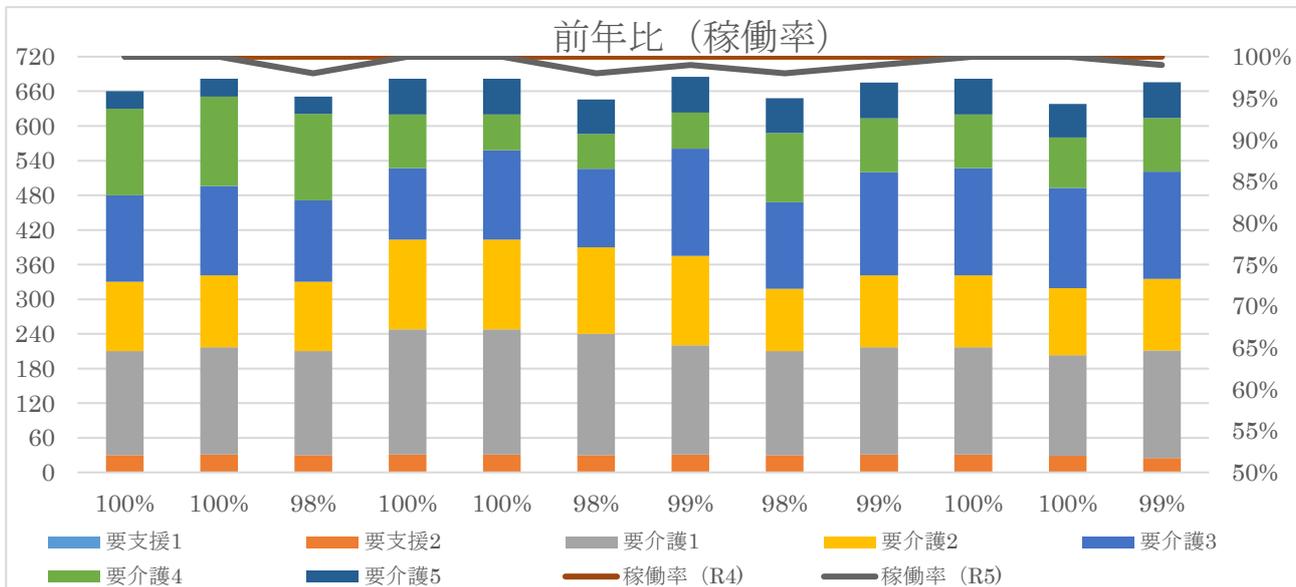
【利用実人数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
要介護1	6	6	6	7	7	7	6	6	6	6	6	6
要介護2	4	4	4	5	5	5	5	4	4	4	4	4
要介護3	5	5	5	4	5	5	6	5	6	6	6	6
要介護4	5	5	5	3	2	2	2	4	3	3	3	3
要介護5	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22



### ② 入居延日数及び稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	25
要介護1	180	186	180	217	217	210	183	180	186	186	174	186
要介護2	120	124	120	155	155	150	155	108	124	124	116	124
要介護3	150	155	141	124	155	136	186	150	179	186	174	186
要介護4	150	155	150	93	62	60	62	120	93	93	87	93
要介護5	30	31	30	92	62	60	62	60	62	62	58	62
合計	660	682	651	682	682	646	679	648	675	682	638	676
稼働率	100%	100%	98%	100%	100%	98%	99%	98%	99%	100%	100%	99%



月	具体的活動内容
4月	・感染対策委員会
5月	・リスクマネジメント 虐待防止委員会
6月	・BCPコンプライアンス委員会
7月	・感染対策委員会
8月	・医療的ケア推進委員会
9月	・リスクマネジメント 虐待防止委員会
10月	・褥瘡対策、排泄委員会
11月	・BCPコンプライアンス委員会
12月	・リスクマネジメント 虐待委員会・医療的ケア推進委員会（緊急時の対応について）
1月	・感染対策委員会
2月	・医療的ケア推進委員会
3月	・リスクマネジメント 虐待防止委員会

#### ④ 施設外研修

開催日	研修の名称	研修の内容	参加職種
6月 28日 (水)	チーム力を高めるコミュニケーション研修	組織（チーム）でのコミュニケーションが、円滑な業務遂行や組織（チーム）のために必要であることを認識し、初任者に求められる基本のコミュニケーションを学ぶ。	初任者職員
6月30日 (火)	メンタルヘルス研修	メンタルヘルスについての理解を深め、自身が心身共に健康に過ごすために必要な「セルフケア」の効果的な方法を学び、「ストレス」耐性を高める。	中堅看護職員
7月14日 (金)	問題解決能力スキルアップ研修2	問題解決に大切な基本的重要なポイントについて理解し、問題を解決していくためのプロセスと方法論について実践的に学ぶ。	中堅介護職員
7月19日 (水)	メンバーシップ研修 中堅職員編Ⅰ	組織メンバーの一人ひとりが、プロとして果たすべき役割と使命を正しく理解する。	中堅介護職員
8月3日 (木)	宮崎江南病院 地域多職種勉強会	ターミナルケア～看取りに向けての心構え～	管理者
8月29日 (火)	メンバーシップ研修 初任者編	組織（チーム）の一員として、チームワークの強化や業務レベルの向上に貢献する為の心構えや基本姿勢などを学ぶ。	介護職員
9月22日 (金)	介護現場におけるリスクマネジメント研修	サービスを提供していく上で、起こり得るリスクを想定し回避するための対策や、発生した場合の利用者及び事業所の被害を最小限に抑えるための対策について学ぶ。	介護職員

10月4日(水)	宮崎県 新人育成者向け研修	新人の早期躰職につなげるポイントを理解し、育成担当としての総合的な支援力の向上を目指す	管理者
10月11日(水)	チーム力を高めるコミュニケーション研修 チームリーダー編	円滑な業務遂行や組織(チーム)の成長のため、組織(チーム)でのコミュニケーションの必要性を再認識する。	リーダー的介護職員
10月23日(月)	福祉従事者が地域と繋がりを考える研修～コミュニティーソーシャルワーク～	公益法人である社会福祉法人等としての使命や役割を再認識するとともに、地域にならなくてはならない存在である続けるための地域展開について。	管理者
11月8日(水)	チーム力を高めるコミュニケーション研修 中堅職員編	円滑な業務遂行や組織(チーム)の成長のためコミュニケーションの必要性を再認識し、中堅職員に求められる組織(チーム)内外の人々と即座に信頼関係を築けるコミュニケーションを学ぶ。	中堅介護職員
12月1日(金)	認知症の基礎理解研修	脳の病気や障がいなど様々な原因により、認知機能が低下し日常生活に支障が出てくる認知症について、基本を正しく理解し、適切な介護に繋げる	介護職員
12月8日(金)	後輩に仕事を教えるティーチング研修 2	指導者が持っている知識、技能、技術を後輩に正しく確実に「教える」ティーチングについて、流れやポイントを確認し理解を深める	中堅介護職員
1月25日(木) ～ 2月20日(火)	令和5年度 宮崎市介護従事者現任研修	介護従事者の資質の向上を図る	全職員
2月1日(木)	高齢者支援の為のコミュニケーション研修	高齢者支援の専門職として、コミュニケーションの目的を捉えて実践することの大切さを理解する。	介護職員
2月6日(火)	令和5年度 宮崎労働局委託事業「経験交流会」	「集まる」「辞めない」「育つ」魅力ある職場づくりを目指す。	管理者

## 5. 訪問介護よりそい

### (1) 令和5年度重点目標の達成状況

利用者の人格、人権を尊重し、本人が持つ力や意欲を引き出せるように様々なニーズに対応したサービスを提供します。元気に楽しく過ごしている、という実感が持てるようサポートし、並びに利用者、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図ります。

→自宅訪問時に本人の意欲、動作の確認、サービス提供の際の情報の共有をし、その方に合ったケアを行うことで、日々の暮らしが楽しめるように支援した。また、利用者の今の生活を変えることなく支えていけるよう、サービスの提供を行い、担当ケアマネジャー、ご家族と話し合いながら支援した。

#### 【サービスの内容】

##### ① 身体介護

・入浴及び清拭介助 ・食事介助 ・排泄介助 ・整容 ・更衣介助 ・その他必要な身体介助

→ご本人の体調やADLレベルを確認し、生活動作の維持向上に努めた。

また、羞恥心などに考慮し、プライバシー保護や自立を促せるような支援方法を職員間で共有、ご家族やケアマネとの連携を図り支援した。

##### ② 生活援助

・一般的な調理 ・衣類等の洗濯・補修 ・掃除・整理整頓 ・その他必要な家事・相談等・買い物支援

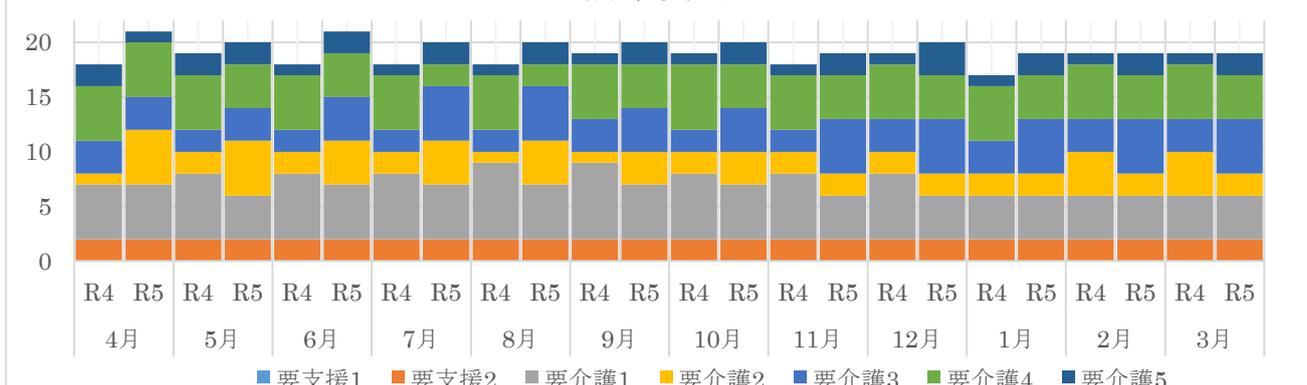
→在宅での生活が継続できるよう、また、自立した生活が継続できるよう支援した。また、ご家族やケアマネジャーとの連携を取りながら、自治会の一員としての役割も持てるよう、声掛けを行った。また、(有料老人ホームに)入居しながらも、一人ひとりの生活が楽しめるよう、居室内の清掃や整理整頓を一緒に行い、精神的なケアを含めた支援を行った。

### (2) 事業実績

#### 【利用登録者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
要介護1	5	4	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4
要介護2	5	5	4	4	4	3	3	2	2	2	2	2
要介護3	3	3	4	5	5	4	4	5	5	5	5	5
要介護4	5	4	4	2	2	2	4	4	4	4	4	4
要介護5	1	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2
合計	21	20	21	20	20	20	20	19	20	19	19	19

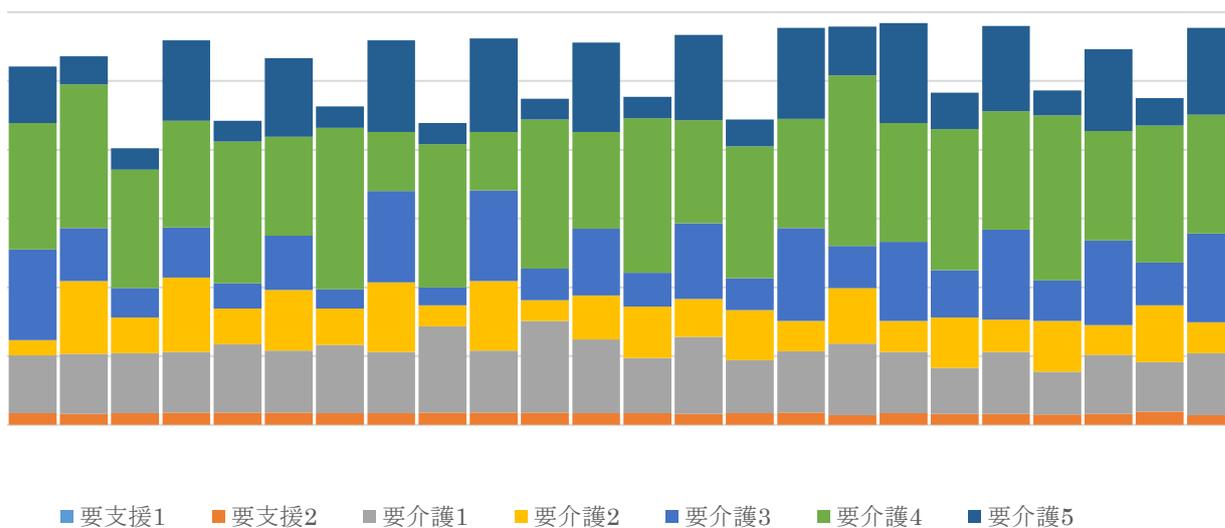
前年度比



【出動回数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	16	18	18	17	18	17	16	18	17	16	16	14
要介護1	87	88	90	89	90	107	112	89	89	90	86	90
要介護2	106	108	88	101	101	64	55	44	45	47	43	45
要介護3	77	73	79	133	132	97	110	135	115	131	123	129
要介護4	209	155	144	86	85	141	150	159	173	172	159	173
要介護5	41	117	114	133	136	130	104	132	145	124	119	126
合計	536	559	533	559	562	556	567	568	584	583	546	577

前年比



## 6. 通所介護よりそい

### (1) 令和5年度重点目標の達成状況

利用者の人格、人権を尊重し、本人が持つ力や意欲を引き出せるように様々なニーズに対応したサービスを提供します。利用者同士のコミュニケーションの場としての機能の充実を図り、レクリエーションや機能訓練その他日常生活の向上に努めていきます。元気に楽しく過ごしている、という実感が持てるようサポートし、並びに利用者、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図ります。

→利用者様の個性を活かし楽しみのある時間が過ごせるよう、レクリエーションや個別機能訓練、食事、入浴支援の工夫を行い、また、ご家族や担当ケアマネジャー等との関わりを多く持ち連携を図った。

#### 【サービスの内容】

##### ① 健康管理

→有料老人ホームの職員及びご家族からの報告やご本人の様子などから、異常の早期発見とその後の対応・連携に努め、健全に日中生活を送れるよう支援した。

##### ② 入浴

→気分転換につながるよう、安心・安全に入浴ができるよう環境整備を行い、楽しい雰囲気作りを行った。

##### ③ 排泄介助

→羞恥心を傷つけないよう配慮し、ご本人の体調管理・健康管理へ繋がるように職員間の連携を図った。また、排泄の自立を促すため、利用者の身体能力を活かした援助を行った。

##### ④ 食事の提供

→安全に楽しく食事ができるような雰囲気作りや季節に応じた食事の提案、体調を考慮し、食事形態を変更したり職員間での連携を図った。

##### ⑤ 個別機能訓練

→個別に応じて訓練メニューを考え、お一人お一人に応じた個別機能訓練を実施した。また、普段から集団体操を行い、体力維持・増進に努めた。

##### ⑥ レクリエーション

→季節に応じた活動を提供し、楽しみながら他利用者と交流ができ、健康的に体を動かせる機会を作った。

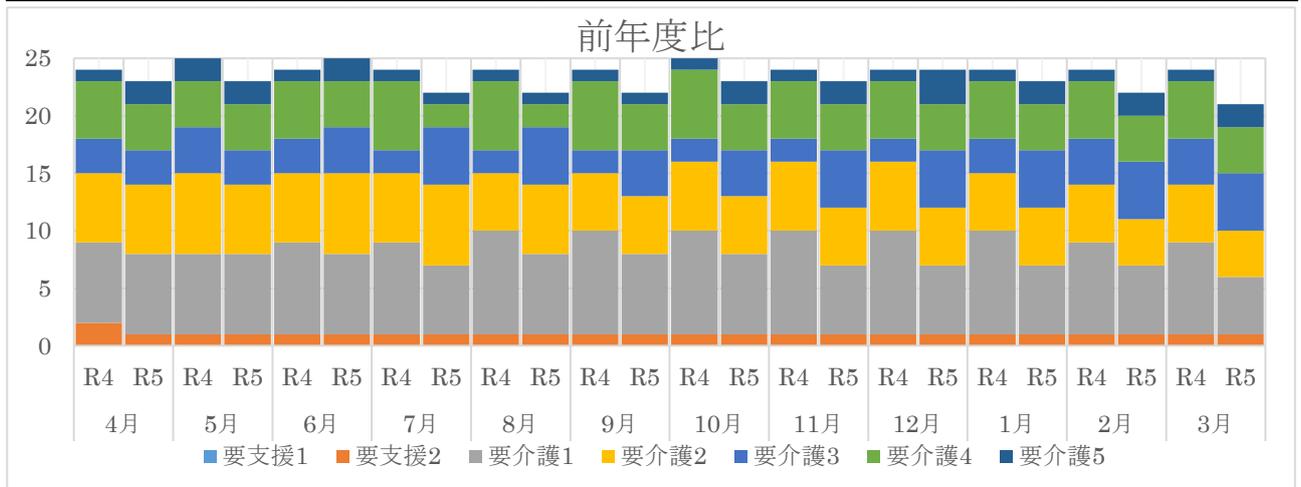
##### ⑦ 送迎

→安全に送迎ができるよう、職員の日頃からの体調管理と安全運転に努め、(有料老人ホームの)職員やご家族からの情報収集ができる機会をつくり、ご本人とご家族の支援に活かした。

## (2) 事業実績

### ① 登録利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
要介護1	7	7	7	6	7	7	7	6	6	6	6	5
要介護2	7	6	7	7	6	5	5	5	5	5	4	4
要介護3	3	3	4	5	5	4	4	5	5	5	5	5
要介護4	5	4	4	2	2	4	4	4	4	4	4	4
要介護5	1	2	2	1	1	1	2	2	3	2	2	2
合計	21	23	25	22	22	22	23	23	24	23	22	21



### ② 延利用者数及び稼働率<定員25名>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	4	5	4	4	5	4	4	5	4	4	5	2
要介護1	136	144	112	134	149	149	148	134	128	124	130	108
要介護2	137	119	137	136	112	98	102	92	98	94	55	75
要介護3	67	72	92	112	113	75	86	110	99	112	116	122
要介護4	105	97	90	52	53	91	91	91	87	84	88	91
要介護5	17	34	23	18	16	18	22	21	24	20	20	18
合計	468	471	458	456	448	434	453	453	440	438	414	416
稼働率	62%	61%	61%	59%	58%	58%	58%	60%	57%	57%	57%	54%

